



会報  
シルバー

きたうら

題字／第三代理事長 佐藤貞一氏書

第 34 号

(通巻第57号)

令和6年8月1日

■発行

公益社団法人

仙北市シルバー人材センター

仙北市角館町北野62-2

電話55-1646/FAX55-1652

E-mail:kitasen@sjc.ne.jp

(HP)<https://webc.sjc.ne.jp/kitasen/>



秋田駒のムーミン谷から  
見た大焼砂

生保内班 田村 茂雄



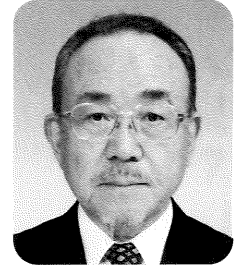
季節の写真を  
掲載します

会報シルバーきたうらの、表紙に載せる  
写真を広く会員の皆さんから募集します  
ので写真に簡単なメッセージを添えて応  
募して下さい、お待ちしております。

夏本番

中央班 山田 勝洋





# 自主・自立・共働・共助

公益社団法人仙北市シルバー人材センター  
理事長 山田 勝洋

皆様におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年中は、当センターの運営

に格別なるご支援、ご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

さて昨年の夏は豪雨により県内各所で、浸水で多大なる災害に見舞われ、復旧までには大変

な労力と時間がかかりました。

地球規模による温暖化が影響が

て、これからもこの様な災害が

発生するものと思えます。昨今の夏の猛暑には大変困惑しております。屋外での仕事に赴く会員の皆様には頭のさがる思いが

症には特に気をつけていただきたく思います。昨年から実施されて

いるインボイス制度の施行などシルバー事業を取り巻く厳

しい環境の中、センターにおいては、その変化に対応出来るだ

けの事業経営手腕が求められています。又、今年の秋からはフ

リーランス新法も施行され今後シルバーの運営にどのような影

響を及ぼすのか注視していく必要があります。

シルバー事業の理念である「自主、自立、共働、共助」の

また、コロナ禍を脱したものの、県内ではツキノワグマが生活圏へ出没する異常事態となっております。

さて、仙北市においても少子高齢化が急激に進み、人口減少が著しく進んでいる現状があります。

仙北市の昨年度の出生数は七十二人で、高齢化率は約四十五パーセントとなっております。

このような中、皆様は間違いなく仙北市の暮らしと地域経済を支える大切な力になっていきます。

これまでのシルバー人材セン

もと、豊富な経験や知識、技術等を活かし生涯現役で、地域の要望に対応できるように会員拡大

を目指す所存です。シルバー事業は高齢者でも働く意欲があれば活躍でき、又地域の皆様に期

待される組織として安全最優先で取り組んでいます。

これからも市民の皆様のご

ズに應える組織として、会員、役職員一丸となって邁進してま

いりますので今後共にご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し

上げます。

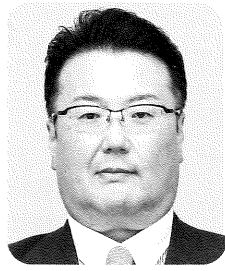
ターの広範な取り組みにより、市民生活も市役所業務も本当に助けられました。少子、高齢化社会、人口減少の中で人手不足

が続く、地域が存続し続けるには貴センターの役割が益々重要になります。また、皆様のご協力は

しには、私が掲げる市政理念である「幸福度全国No.1」の仙北市の実現は叶いませんので、どう

ぞ今後とも健康に十分ご留意をいただき、仙北市を支える主体者として、さらなるご活躍をご祈

念申し上げます、挨拶いたします。



# ごあいさつ

仙北市長 田口 知明

皆様におかれましては、日頃

より仙北市の取り組みをご支援いただき、心より御礼を申し上げます。変わらぬ行政事業サポ

ート、また会員の健康保持と生きがいづくりなど、積極的に取り組まれていることに重ねて敬意を表します。

世界に目を向けますと、国際

情勢の不安定化、特にロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのガザ地区侵攻が起す波紋が広が

がっています。それらに伴う継続的な物価高騰などがあり、地元企業の収益の圧迫と市民生活への影響が長期化しています。



## 令和6年度定時総会 開催

去る令和6年6月6日(木)に、西木温泉  
ふれあいプラザクリオンを会場に令和6年度の定時総会を開催いた  
しました。

昨年度までは「新型コロナウイルス感染症」の感染防止対策を踏まえた開催とさせていただ  
きましたが、今年度は多くの会員に参加していただきたく、制限を設けずに開催いたしまし  
て、書面による議決権行使書、委任状の提出等合わせて総会員の過半数を超えたことにより  
総会が有効に成立し、議案は原案の通り全て承認、可決されました。

また、今回は任期満了に伴う役員改選もあり、総会終了後の理事会  
に於いて、新三役が決定いたしました。



三期六年の長きにわたり、  
大変ご難儀をお掛けいたしま  
した。

### 退任役員

前 監 事 橋 本 勲  
(松木内班)

監 事 籾 佐々木 幹子  
(田沢班)

監 事 伊 藤 一彦  
(西明寺班)

理 事 佐 藤 晴子  
(西明寺班)

理 事 清 水 力  
(神代班)

理 事 井 上 久美子  
(菅沢班)

理 事 西 宮 忠雄  
(北部班)

常務理事兼事務局長  
菅 原 和 善

副理事長 西 宮 博和  
(西明寺班)

理事長 山 田 勝洋  
(中央班)

### 新役員名簿

# 会員の広場

## 高齢者の嘆き

生保内班 田村 茂雄

我が国では二〇二五年に団塊の世代が七十五歳以上になり、介護・医療など社会保障を維持する為「多くの高齢者に働いてもらう方向に」と言う記事が載っていました。高齢化が進み、若者が減っていく事は、一九五五年を境に一世帯当り五・七人から、四人を割った一九七五年の三・八人と急に減少し、今では二・四人となり、国や自治体がどんな手を打とうが空き家が目立ち、限界集落などと耳にし定期バスも廃止に、人の動きも無くなり、私の知人もここに住んで居ても将来商店、病院など無くなるのが目に見えているから少し大きい市内に移転しました。年金制度も今徴収分は今の高齢者に振り向けないで、納めた方には老後の年金に確約しておかなければ、今の若者には納めても納得してもらえないでし

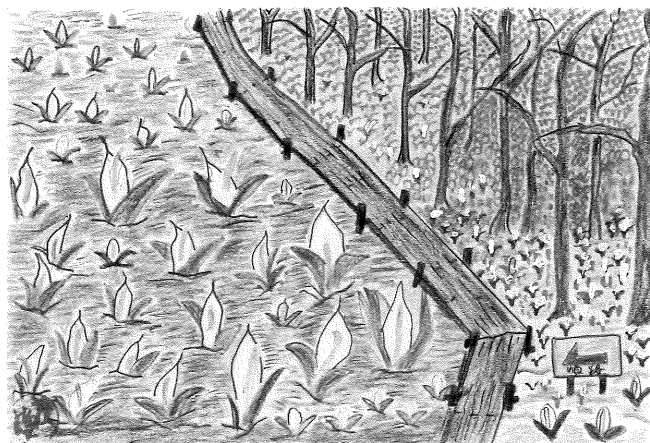
よう？「絵に書いた餅」の話をしているも将来は分からないで、不満は募り不安を煽るだけで、一般の会社なら「年金徴収だけして支給は無い」は使い込みでしょう。

さて話は変わり、此の頃思う事は、人は食べる為に生きてると思っっています。朝六時に起き、朝食後九時頃畑の手入れや水やり、十一時半昼飯の準備、少し早めの昼、食後の休息、涼しくなったら鉢への水やり、「この植木は俺より長生きするのかな〜」などと独り言。夕食を終え、入浴を済ませると、もうダウン……。ほんとうに一日が早く過ぎてしまふ毎日を過ごしています。

今や「AI」とか「QRコード」など、人の何倍の仕事も熟してくる、スマホなど頭を悩ましながら使っています。バイクの時代から一人一台のマイカー時代へ利便性だけが追求され、同時に元の金の卵達は、これからどうやって生きて行こうかと苦慮しているのである！大中小企業のベースアップで、その分価格に転嫁され、現役者

はそれなりに、年金族は月平均七百円アップだそうです。物価高により今スーパーに立ち寄ると卵や豆腐、牛乳など小型化して販売しているのが分かります。以前より量を減らしても食べてもらいたいのでしょうか。高齢者の中には体が悪くても病院、薬局に行けない方が居る事を、今の政治家は知っているだろうか？

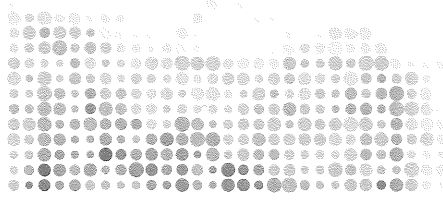
- 新型コロナも怖かったけど、今の物価高も、同様怖いと思う。今日此の頃です。



閑静な刺卷湿原に、春一番の水芭蕉。  
人も熊も動き出す季節かな？  
(生保内班：田村茂雄)

### 安全・適正就業委員

- |       |       |       |       |    |        |       |
|-------|-------|-------|-------|----|--------|-------|
| 委員    | 委員    | 委員    | 委員    | 委員 | 副委員長   | 委員長   |
| 永     | 仙     | 藤     | 清     | 西  | 佐      | 藤     |
| 浦     | 波     | 本     | 水     | 宮  | 藤      | 村     |
| 慧     | 久     | ナ     | 力     | 忠  | 久      | 秋     |
| (事務局) | 美     | オ     | (神代班) | 雄  | (西明寺班) | 夫     |
|       | (事務局) | (中川班) |       |    |        | (岩瀬班) |



# お客様の声

## 薪ストーブの暖かさをこれからも

西木町 上野 美田子

我が家の冬はずっと薪ストーブです。古い日本家屋の我が家は薪ストーブなしでは冬は越せません。私の父が存命の頃は、林業を営んでいた父が木材を調達し、自ら割っておりました。しかし、父が亡くなったあと、「さてどうしたらよいものか。」と困ってしまいました。そこで周りの人に聞いたところ、「シルバー人材センターで薪割りもしてもらえよ。」との情報を得て、それ以来ずっと毎年春にシルバー人材センターに薪割りと小屋の中に割った薪を積み上げる作業をお願いしております。作業員の皆さんは、私が仕事で不在のときも薪割り作業を進めてくださり、信頼のおける方々ばかりです。寒い冬を暖かく過ごせるのは皆さんのおかげです。いつもありがとうございます。

# 会員の声

## いくつになっても勉強

中央班 高橋 昉賊

私がシルバー人材センターへ入会したのは約一年位前です。最初は障子張替え講習会に参加させて頂きました。講習を受け会員に登録させて頂きました。その後障子張替えの作業を頂きました。

障子紙を剥がすときはただ紙に水をかければよいと思っておりましたがお湯をかけるのだと教えられました。お湯をかけることにより糊がとけやすくなる、ということでした。なるほどなと思いました。紙がきれいに剥がれました。自分では知っていました。もっとも知らない事だらけです。会員のみなさん方からいろんなことを教えてもらい今後の仕事をさせて頂きたいと思っております。そして人と人のつながりを大事にして残された人生をすご

たいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

## 障子張り作業

桜木内班 橋本 敦子

五年程前の地域班会議の際に後継者育成目的にと障子張り講習会の案内があり自宅でも活用できると思い受講しました。すぐさま「花葉館」の休館を利用して十余名で三日間、現地に道具を持ち込み先輩の方々に交じり作業をする機会を与えてもらいました。床にブルーシートを敷き詰めて、障子を外す際には番号をつけ、ぬるま湯で古い紙を剥がしつつ糊も取り除き汚れも拭き上げ乾かします。この作業が肝心です。乾いた障子から順に作ってもらった糊を刷毛につけて塗り、二人が組になり呼吸を合わせて紙を置きます。丁寧に擦り定規とカッターナイフを使い余分な紙を切り落としますが、この時は息を止めて慎重になります。糊の乾くのを待つて番号順に元に戻し張り終えることとなります。センターで張

# 広報委員

- 委員長 田村 茂雄 (生保内班)
- 副委員長 阿部 栄子 (西明寺班)
- 委員 中村 清二郎 (北部班)
- 委員 井上 久美子 (菅沢班)
- 委員 佐藤 晴子 (西明寺班)
- 委員 籾佐々木 省吾 (菅沢班)
- 委員 草 彌 八重子 (事務局)

る時には依頼者宅まで預かりに行き同じ作業をして戻しますが、最後の最後に紙を破った失敗もあります。五月には集落会館での現地作業があり達成感を味わう事が出来ました。張り替えし六人皆で見入ったり五十余枚の障子の白し障子張りは私の財産となりました。

# 文芸

## 俳句

- おしぼりのきりりと冷えて夏座敷 神代班 大山 優子
- 裏川にドブンと夫の汗流し
- 白鷺やすくと首伸す地獄耳

- サバ岳にミズ鍋語る時代あり 松木内班 橋本 勲
- 朴の葉に味噌おむすびの時代あり

- 十葉の白き残して草むしる 松木内班 橋本 敦子
- 紫陽花の一朵咲き初む今朝の雨

## 短歌

- 雲の峰襲いかかりし夏嵐ベダル踏みにて急ぎ家路に 菅沢班 小田長 幾子
- 満天の星に輝く夏の夜思わず祈る我に驚く

- さ庭辺にこんもり咲ける浜菊の 雲沢班 菅原 シホ子
- 茎太ければさゆらぎもせず
- 缺握る力ある身をたのみとし

五月の庭に脚立を据える

- 曇天に朝日チョッピリ顔を出し残雪光る山脈の景 西明寺班 阿部 栄子
- 河川敷歓声響く児等の声

- はびこりし草むしりつつ十葉は 松木内班 橋本 敦子
- 手に添いて素直に絡む胡瓜たち 残り置きたり花過ぎるまで
- 黄色き花の二つ三つ咲き

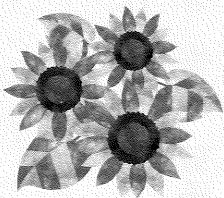
## 川柳

- 古城山の姥杉見てる桜道 北部班 青山 甫
- 熊多し山の芽も命がけ

- 上野駅お国なまりを聞きたくて 広久内班 伊藤 謙悦
- 妻と行く年に一度の泊まり旅

- 厳冬に椿凜と咲き春近し 広久内班 伊藤 恭子
- 青春を忘れず持ちて八十路

広報委員会では、会員の皆さんからの文芸を、随時募集しております。



## 新入会員の紹介

令和5年7月から令和6年6月までに、会員となった仲間26名をご紹介します。

中央班	安杖和久	中央班	戸澤昌子	白岩班	黒澤宣子	菅沢班	菊池誠	菅沢班	佐田昇	雲沢班	高橋千工子	雲沢班	鈴木輝一	雲沢班	高橋功	雲沢班	高橋剛	神代班	浅利るみ子	神代班	男鹿由	神代班	小林正継	神代班	藤原敏雄	神代班	平岡久子	神代班	坂本秀昭	生保内班	伊藤吉夫	生保内班	千葉進	生保内班	荒木哲和	生保内班	島澤 太右衛門	西明寺班	佐藤陽子	西明寺班	高橋アサ子	西明寺班	門脇宏和	西明寺班	佐藤良子	松木内班	浅利けい子	松木内班	松木内班	雪子
-----	------	-----	------	-----	------	-----	-----	-----	-----	-----	-------	-----	------	-----	-----	-----	-----	-----	-------	-----	-----	-----	------	-----	------	-----	------	-----	------	------	------	------	-----	------	------	------	---------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	-------	------	------	----

# 事務局だより

## 《携帯「ショートメッセージ(SMS)サービス」について》

令和3年8月より、必要に応じて会員のスマートフォン・携帯電話に「ショートメッセージ(SMS)」で、センターからの事務連絡や会議、イベントなどの案内を一斉送信していますが、今後郵便料金の改訂に伴い、可能な限り活用させていただきますので、携帯電話が未登録の方は、番号を事務局へお知らせください。

※「ショートメッセージ」とは……携帯電話番号を用いた短文でのメッセージです。

【受診可能な機器】 ・スマートフォン(スマホ)、携帯電話(ガラケー)

【SMS送信元(センター)の番号】

・送信元(仙北市シルバー人材センター)の電話番号は、受け取る方(シルバー会員)の携帯電話の契約会社ごとに異なります。

携帯電話の契約会社	携帯電話に表示される電話番号
NTTドコモ、au、楽天モバイル	050-5491-4105 または +81 50 5491 4105
Softbank、Y!mobile	242244

- 上記番号に電話やメッセージを返信しても届きませんので、返信はしないでください。
- センターからのSMSは必ず上記番号から届きますので、番号をご自身のアドレス帳に登録すると便利です。
- メッセージ文末に「URLアドレス」が記載されていたら、「URLアドレス」をタップしていただくことで、センターでは誰がメッセージを確認したかがわかります。

【注意事項】

- みなさんが受信した「SMS」には料金はかかりません。
- メッセージ文末の「URLアドレス」をクリックするとパケット通信料(データ通信料)が発生します。パケット料金はご自身の携帯電話会社との契約内容で変わります。

## 《センター名入りヘルメットの販売について》

平成27年度より販売しておりますセンター名の入ったヘルメットですが、令和6年度も随時注文を受け付けております。

安全対策のひとつとして、安全・適正就業委員会に於いてヘルメットの着用を義務付けている職種がありますので、必要な方はお申し込みください。

なお、お渡しできるまで時間を要しますのでご了承願います。

### ◇ エアライトシリーズ(ホワイト×グレー)

※SCマーク、センター名入り(緑) 1個 **3,850円**(消費税込み) ※送料別途

《ヘルメット着用義務 職種》

・草刈り(機械刈り) ・伐採、枝払い作業 ・塗装作業 ・植木などの剪定作業 ・冬囲い及び冬囲い撤去作業

## 《センター事務所の移転について》

平成8年10月から事務所として使用しております建物が、令和7年度中に解体されることになり、令和6年度中には移転する必要が生じたので、現在、移転の準備を進めております。

つきましては、移転に伴い、下記の期間は事務所を閉所いたしますので、大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、令和6年10月1日より通常業務を再開する予定です。

◇閉所期間/令和6年9月24日(火)~令和6年9月30日(月)

《移転先》

秋田県仙北市角館町川原中道65(旧:中川集落センター)

## 計報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

堀川貞雄さん(七十八歳) 真田修さん(八十歳)  
田沢班 雲沢班

## 同世代の仲間と一緒に働いてみませんか？

当センターでは、随時、仙北市にお住いの健康で元気な皆さまをお待ちしております。  
特に、地域によっては「植木等の剪定」や「草むしり」のほか、「市広報の配布」などを希望する  
会員が不足しております。

60歳以上で働く意欲があればどなたでも会員になれますので、お友達同士やご夫婦お揃いで説  
明会へ参加してみませんか？

お話を聞くだけでも構いませんので、お気軽にお問合せください。



### 入会説明会の開催日

令和6年 8月20日(火)	令和7年 1月20日(月)
9月20日(金)	3月21日(金)
10月21日(月)	4月21日(月)
11月20日(水)	5月20日(火)
12月20日(金)	6月20日(金)
	7月22日(火)

※ 説明会へ参加希望の場合は、準備の都合により事前の申込みを  
お願いします。なお、2月の開催はありません。

【お問合せ先】 ☎55-1646



スマホ教室



障子張り講習会

### 編集後記

前広報委員長の真田さんが亡く  
なってから初めての「きたうら」  
発行になります。多趣味な方で、  
写真や文芸、パソコン・スマホ教  
室など生涯勉強、生涯現役を貫い  
ておられた方でした。

心よりご冥福をお祈り致します。  
そしてもう一人、身近な人が亡  
くなりました。何の根拠も無く自  
分の身内はいつまでも元気である  
ものと思いつまでも元気でいる  
段から元気のいい人だったので、  
亡くなった事を受け入れるのに時  
間が掛かりました。

人は必ずいつかは死んでしまう。  
解りきっている事なのに、自分  
が明日死んでしまうかもしれない  
とは普段考えていません。おばあ  
ちゃんもまだまだ長生きできる、  
夫ともいつまでも馬鹿な話や我が  
儘を言い合えると思ってしまう。  
でも、そんな保証はどこにも無い  
のです。

だから、これからは一日一日を  
大切に後悔が少しでも少なくなる  
様に生きていこうと思います。

広報委員 佐藤晴子